



図書室だより 2月号

渋谷区立広尾中学校
学校長 川上弘文
学校図書館専門員
岡崎有希子 北島佑奈

2025年 2月 発行

『ライオンのおやつ』 (分類:913) 小川糸/著 ポプラ社/出版



本でめぐるお菓子の世界



2月は町にお菓子があふれる季節。世界中のお菓子を知ることができ、本や、印象的なお菓子が出てくる物語、日本の和菓子の本など、「お菓子と本」をテーマに本を紹介し、読むもよし、味を想像するもよし、作ってみるもよし。今月は、美味しい世界へあなたを誘います。



若くして余命を告げられた雫は、残りの日々を瀬戸内の島のホスピスで過ごすことを決めた。穏やかな景色の中、本当にしたかったことを考える雫。ホスピスでは毎週日曜日、入居者がリクエストできる「おやつの日」があった。

新しい本が届きました

リクエストがあった本や、図書館専門員が選ぶぜひ読んでほしい本など・・・新着本コーナーをぜひ見に来てくださいね！

3年生の貸出について



3年生の貸出は2月21日(金)までとなります。卒業までに必ず本を返してください。

『世界のおやつ』 (分類:596) 鈴木文/著 パインインターナショナル/出版



アジア・中東・アフリカ・アメリカ・ヨーロッパなど、世界各国に伝わるおやつ 100 品を、おうちで作れるレシピとともに紹介します。著者は世界 50 カ国以上を旅したパティシエ。お馴染みのおやつから一風変わったおやつまで、見て、作って楽しめる1冊です。

『チョコレート工場の秘密』 (分類:933)

ロアルド・ダール/作 田村 隆一/訳 評論社/出版



チャーリーの町にあるチョコレート工場は、世界一有名。でも、働く人たちの姿をだれも見ることがない、ナゾの工場！そこへ、5人の子どもたちが招待されることになり・・・。



『あん』 (分類:913) ドリアン助川/著 ポプラ社/出版



千太郎のどら焼き店のバイト求人を見てやってきたのは、70歳を過ぎた手の不自由な女性・吉井徳江だった。徳江のつくる「あん」のうまさに舌をまく千太郎は彼女を雇い、店は繁盛しはじめるのだが・・・。

・三島由紀夫 生誕100周年・

三島由紀夫は 1925 年 (大正 14 年) に東京に生まれました。祖母の影響で幼少期から歌舞伎や文学に親しみ育ちました。自身の少年時代から 23 歳に至るまでの時期を自伝的に書いた『仮面の告白』をはじめ、『潮騒』や『金閣寺』など多くの傑作を生み出しました。文体や内容から難解な印象を持つ人もいますが、小さな島で惹かれ合う若い男女の恋愛を描いた『潮騒』は、爽やかな青春小説として読むことができ、三島由紀夫作品を初めて読む人にもおすすめです。参考:三島由紀夫文学館 HP

『金閣寺』 分類:913 三島由紀夫/著 新潮社



一九五〇年七月一日、「国宝・金閣寺焼失。放火犯人は寺の青年僧」という衝撃のニュースが世人の耳目を驚かせた。この事件の陰に潜められた若い学僧の悩み——ハンディを背負った宿命の子、生への消しがたい呪いと、それゆえに金閣の美の魔力に魂を奪われ、ついには幻想と心中するにいたった悲劇……。31歳の鬼才三島が全青春の決算として告白体の名文に綴った不朽の金字塔。

